

科名 外科
対象疾患 CLDN18.2陽性の治癒切除不能な進行・再発胃癌（2回目以降）
プロトコール名 ピロイ+XELOX（2回目以降）

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	...	14	...	21
1	点滴注	メイン	生食	500mL	ラインキープ 残破棄可	↓				
2	点滴注	側管①	パロノセトロンバッグ	0.75mg	30分かけて	↓				
			アロカリス	235mg						
			デキサート	9.9mg						
			ファモチジン注	20mg						
			ボララミン	5mg						
3	点滴注	側管②	ピロイ	600mg/m ²	50mL/1h→100mL/1hr→150mL/1hr→200mL/hr	↓				
			注射用水	5mL	投与開始後15分経過観察。					
			生食	250mL	総液量がピロイ溶解液量の10倍となるようにする。					
			生食	500mL						
4	点滴注	側管③	オキサリプラチン注	130mg/m ²	2時間かけて	↓				
			5%ブドウ糖液	500mL	ルート毎変更					

内服 ゼローダ 1回1000mg/m²を1日2回 d1～d14投与、d15～d21は休薬

★1クール＝21日

～MEMO～

催吐レベル4（90％以上）

<ピロイ>

投与中から悪心嘔吐出現し、投与速度が早いと悪心嘔吐の頻度が高まる。（初回に多い）

投与中の悪心嘔吐出現時の対応は別紙参照

初回投与速度での合計時間が1時間を超えたら次の速度へUp

無菌性の観点から室温にて希釈後6時間以内に投与完了。安定性は30℃で16時間まで安定。

<オキサリプラチン>

必ず5％ブドウ糖で希釈。（薬効がおちる。）

デキサート注は6.6～19.8mgで選択可。

オキサリプラチンのアレルギー反応は他の薬剤と出現形態が違うので注意する。

（現在は4～16クール目、投与30分経過後に出現することが多いと報告されている。2007.10）